

2017

新春インタビュー 九州はひとつ

～建設産業が担う役割と課題～



九州建設情報社



国土交通省九州地方整備局 小平田 浩司 局長 に聞く

九州各県で相次いだ自然災害において、迅速な対応で支援活動や復旧作業に尽力し、あらためてその存在意義を示した国土交通省九州地方整備局。また、各地域で昼夜をいとわず作業に従事する地元建設業者。建設業は地域の基幹産業であり、社会資本整備には欠かせない存在でもある。2017年を迎えるに当たり、九州および鹿児島県における今後の社会資本整備に対する考え方や今後の動向について、国土交通省九州地方整備局の小平田浩司局長に話を聞いた。

熊本地震／被災地復旧尽力に感謝

—— 新年おめでとうございます。昨年を振り返って

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素より、国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震をはじめとして、6月豪雨や台風16号による災害、阿蘇山の噴火など自然災害が相次いだ。

特に、甚大な被害が発生した熊本地震では、地震発生直後から一刻も早い被災地の復旧のため、被災市町村にリエゾンを派遣して情報収集を行うとともに、全国の地方整備局等の協力も得て、専門分野のプロフェッショナルで構成するTEC-FORCEを現地へ派遣した。

また、協定締結の各団体による昼夜を問わない活動もあり、4月末までに応急復旧を概ね完了した。7月には「熊本地震災

害対策推進室」を設置し、現在は本復旧の早期完了に向けて取り組んでいる。

これらの対応は、県知事をはじめ、被災した市町村長から感謝の言葉をいただき、あらためて国の役割を実感するとともに期待の大きさを強く感じた。引き続き、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、総力を挙げて取り組んでいく。

今回の地震では、志布志港など九州各地の港から周辺の道路網を利用して人員や物資が送り込まれ、迅速な救命救急活動や電気・水道などの生活インフラの早期復旧につながった。

これは、既存インフラのストック効果が現れた好例だ。

今後、発生が予想される南海トラフ巨大地震に向け、インフラ施設の耐震強化を進めるとともに、九州の横断軸である九州横断自動車道延岡線や中九州横断道路などの整備により、災害時の避難・緊急輸送などの円滑化に向けたネットワークの多重化・代替性確保を進めつつ、港湾や空港との連携を強化し、物流や人流の円滑化を図っていく。



—— 安全・安心の確保に向けては

台風 16 号による災害では、垂水市の国道 220 号で磯脇橋が土石流により流出し全面通行止めになったが、災害協力協業者等の協力もあり、わずか 7 日間で仮橋により通行が可能となった。また、鹿児島湾内に大量の流木が漂流したため、整備局が保有する調査観測兼清掃船を緊急出動させ、流木の回収作業を行いジェットフォイル等

の船舶航行の安全性を確保した。川内川では集中的に抜本的な

の完成に向けて整備を進めており、16 年 6 月の出水期より新たな洪水調節容量によるダム運用を開始している。

道路ネットワークの 多重化・代替性確保を

河川整備を行うとともに、洪水調節容量を約 1・3 倍に増強する鶴田ダムの再開発事業を 18 年 3 月

昨年、豪雨災害から 10 年の節目を迎え、水害の記憶を風化させないため、10 月 2 日にさつま町で「川内川の防災・減災を考えるシンポジウム」を、12 月 18 日には沿川首長による「川内川サミット」を開催した。

—— 質の高い観光による地域の活性化としては

観光は、急速な成長を遂げるアジアの需要を取り込み、力強い経済を取り戻すための重要な柱だ。

九州を訪れる外国人観光客数は、過去最高を記録した 15 年の 280 万人に対し、16 年の 1～8 月間で前年比 36% 増の約 240 万人と、これまで経験した事がない伸び率を示し、全国平均を大幅に上回っている。

鹿児島港を訪れた外航クルーズ船も 15 年の 51 隻に対し、16 年は 81 隻と増加している。サファイア・プリンセス等の大型外航クルーズ船も訪れており、大きな

経済効果が見込まれている。

鹿児島県には、県のシンボルである桜島をはじめ、霧島・指宿等の温泉地、世界自然遺産の屋久島、世界文化遺産の旧集成館など、他の地域にない魅力的な地域資源が存在している。

今後、開催されるラグビー・ワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックに向けた地方誘客の推進を図るため、鹿児島県の豊かな自然環境、

歴史・文化、食文化等の地域資源を磨きあげ、質の高い観光による消費拡大と地域の活性化が重要だ。



観光客船「コスタ・フォーチュナ」

—— 交通ネットワーク整備と港湾・空港の機能強化については

昨年 4 月には、東九州自動車道の椎田南 IC～豊前 IC 間の開通により、北九州市から宮崎市までが南北に 1 本の高速道路でつながった。

鹿児島においても高速ネットワークの整備を進めており、南九

州西回り自動車道は 15 年 3 月に鹿児島市から薩摩川内市間がつながった。また、15 年 12 月の阿久根北～野田間の開通に続き、16 年度内に野田～高尾野北間を、17 年度内に高尾野北～出水間が開通予定である。

東九州自動車道「日南・志布志道路」夏井～志布志間は 16 年に新規事業化し、10 月には建設に向けた本格的な測量を開始する「くい打ち」に着手した。

また、交通ネットワークの整備と併せ、港湾や空港の機能を強化

i - C o n 推進し、 生産性・安全性を向上

し、物流や人流の円滑化を図るこ

志布志港では、国際物流機能を強化するため、国際物流ターミナルの整備を推進するとともに、穀物の安定的かつ効率的な海上輸送網を形成し、国際競争力を強化するため、国際バルク戦略港湾を離島では、生活物資等の搬入や農産物等の搬出の多くを海上・航空輸送が担っており、離島地域の安定した生活を支える港湾・空港機

とが重要である。

核とした海上輸送網の強化に取り組む。

鹿児島空港の15年の旅客数は全国で9位となる522万人を記録した。特に、国際線では新たなLCC（格安空港会社）が就航の確保が重要だ。名瀬港においても、16年は6隻のクルーズ船が寄港しており、地域の活性化につながっている。

するなど、過去4年連続の増加となる15万人の旅客数を記録している。今後も路線の安定的な運航を支え、地域の活性化につなげていく。

整備局では、今後も着実に社会資本整備を進めていくことで、九州・鹿児島県の経済が成長し

—— 建設産業のアピールの現状は

整備局では、社会資本整備が国民の暮らしと経済活動を支えてきた役割と、経済・雇用を支える建設業の重要性について、一般の方々にご理解していただけるよう広報に力を入れている。

鹿児島においては、子供たちに土木の魅力を感じてもらうため、開通前の高速道路の工事現場を解放し、クイズラリーや建設機械を見て楽しむイベント「しもずるふれあいウォーク」の開催や「お

やじの日」の現場見学会も行って

おり、今後も重点的に進めていきたい。

昨年は「生産性革命元年」と位置づけ、経済成長を支えるストック効果の高い社会資本の整備・活用等の取り組みを進めている。特に、建設現場の生産性については25年までに20%向上させることを目標に「i - C o n s t r u c t i o n」を推進し、生産性や安全性を飛躍的に向上させ、企業の

経営環境を改善させることで、働きやすくやりがいを持てる職場づくりを目指した取り組みを行っていく。

また、建設現場の完全週休2日制のモデル工事や快適な専用トイレの導入など労働環境の改善に向けた取り組みを継続することで、社会基盤整備やインフラメンテナンスをはじめ、地域の防災にも不可欠な存在である建設業の担い手確保に努める。



—— 建設業者に向けてメッセージを

公共事業等を担う建設産業は、地域の基幹産業として、経済・雇用を支える重要な産業であり、かつ社会資本の整備や維持修繕等のために不可欠な存在である。また、熊本地震時の活躍からも明らかのように、国民生活や社会経済

を支える極めて重要な役割を果たしており、われわれの重要なパートナーである。

これからも、建設業の魅力やストック効果、災害時に担う建設業の重要な役割の発信などさまざまな取り組みについて、パートナ

ーとして知恵を出し合い、共に明るい未来を築いていきたい。

最後になりますが、皆様にとりまして実り多い年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



【プロフィール】

小平田 浩司（こひらた こうじ）

1985年に九州大学大学院工学研究科修士課程修了後、運輸省（当時）港湾局開発課に入省。四国地方整備局港湾空港部長、内閣府沖縄総合事務局開発建設部長を経て、2017年4月から九州地方整備局長に就任。

鹿児島市出身（本籍は東京都）。56歳。